



航空写真（北から）



航空写真（西から）



蘭島水鏡 撮影：西林輝昌氏



晩秋の蘭島 撮影：西林輝昌氏



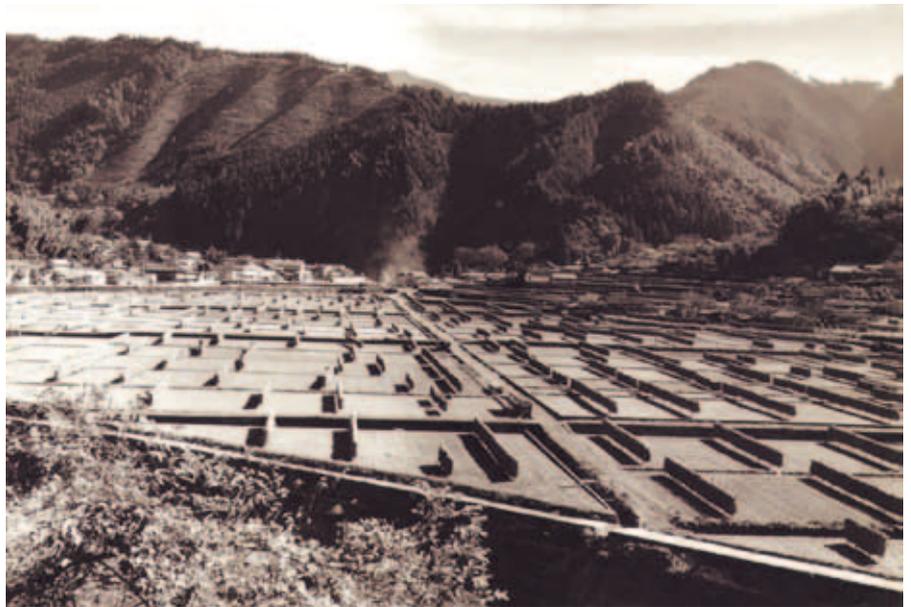
蘭島 下がりの秋 撮影：西林輝昌氏



蘭島の朝焼 撮影：西林輝昌氏



蘭島（昭和 35 年）



西原湯子田（昭和 39 年）



西原湯子田（昭和 15 年）
個人蔵



西原湯子田地区



西原蘭向地区



三田区中谷地区



上湯用水路で遊ぶ子ども達
(昭和 30 年頃) 個人蔵



上湯用水路



上湯用水路の共同清掃



伝統的家屋（小峠地区）



民家に残る水溜



屋敷地の後背に植えられた
バショウ（鮭の巻き葉）



紙漉き作業（昭和 45 年1月）



現在の紙漉作業
（高齢者生産活動センター）



畦畔に植えられたコウゾ
（蘭島）



三田区蔵王権現会式餅行列
(昭和 47 年4月)



西原地区春日神社会式



鬼追いドンド (節分の火焚き)



笠松左太夫頌徳費竣工記念
(昭和2年5月)



早乙女隊による田植え



八幡小学校稲刈り体験

例 言

1. 本書は、和歌山県有田郡有田川町清水、三田に所在する蘭島の棚田とその周辺部の景観を対象に実施策定した保存調査報告書、保存計画書である。
2. 事業は、有田川町教育委員会が主体となり、平成22年度から平成24年度にかけて国庫補助事業の適用を受け、文化的景観保護推進事業（蘭島の棚田景観文化的景観保護推進事業）において実施した。事務局の体制は以下の通りである。

有田川町教育委員会社会教育課	課長	三角 治（平成22・23年度）
	課長補佐	今井敏郎（平成22・23年度）
	学芸員	川口修実（平成22・23年度）
有田川町教育委員会教育部社会教育課	教育部長	三角 治（平成24年度）
	課長	今井敏郎（平成24年度）
	学芸員	川口修実（平成24年度）

3. 保存調査は、有田川町教育委員会が設置した「蘭島文化的景観保存調査委員会」が主体となり、実施した。
4. 本書の構成及び執筆分担は以下の通りである。

第I部 保存調査

第1章 保存調査の目的と沿革 有田川町教育委員会事務局

第2章 蘭島及び周辺の自然環境

- 第1節 此松昌彦（和歌山大学教育学部教授）
- 第2節 高須英樹（和歌山大学教育学部教授）
- 第3節 有本 智（NPO法人自然回復を試みる会・ビオトープ孟子理事）

第3章 蘭島の棚田と周辺の歴史的変遷

- 第1節 海津一朗（和歌山大学教育学部教授）
- 第2節 藤本清二郎（和歌山大学教育学部教授）
- 第3節 有田川町教育委員会事務局

第4章 生業と民俗 蘇理剛志（和歌山県教育委員会文化遺産課）

第5章 景観の構造とその特性

- 第1節 原 祐二（和歌山大学システム工学部講師）
- 第2・3節 平田隆行（和歌山大学システム工学部准教授）
- 第4節 本多友常（和歌山大学システム工学部教授）
- 河原一秀（和歌山大学大学院システム工学研究科）
- 第5節 本多友常

第6章 景観保全とまちづくりの方向性

- 第1節 本多友常・平田隆行
- 第2節 大西敏夫（和歌山大学経済学部教授）

第7章 文化的景観の価値と特性 有田川町教育委員会事務局

第II部 保存計画 有田川町教育委員会事務局

5. 本書の編集は、有田川町教育委員会社会教育課の川口修実が行った。
6. 本書に使用した写真は、和歌山県立博物館、高野山霊宝館、個人より提供を受けた他、明記のないものは有田川町教育委員会及び蘭島文化的景観保存調査委員会委員が撮影したものである。
7. 本書の刊行にあたり、多くの関係機関にご指導、ご協力を賜った。また、調査や資料提供に対し、ご協力をいただきました地域住民の方々に対し、深謝申し上げる次第である。

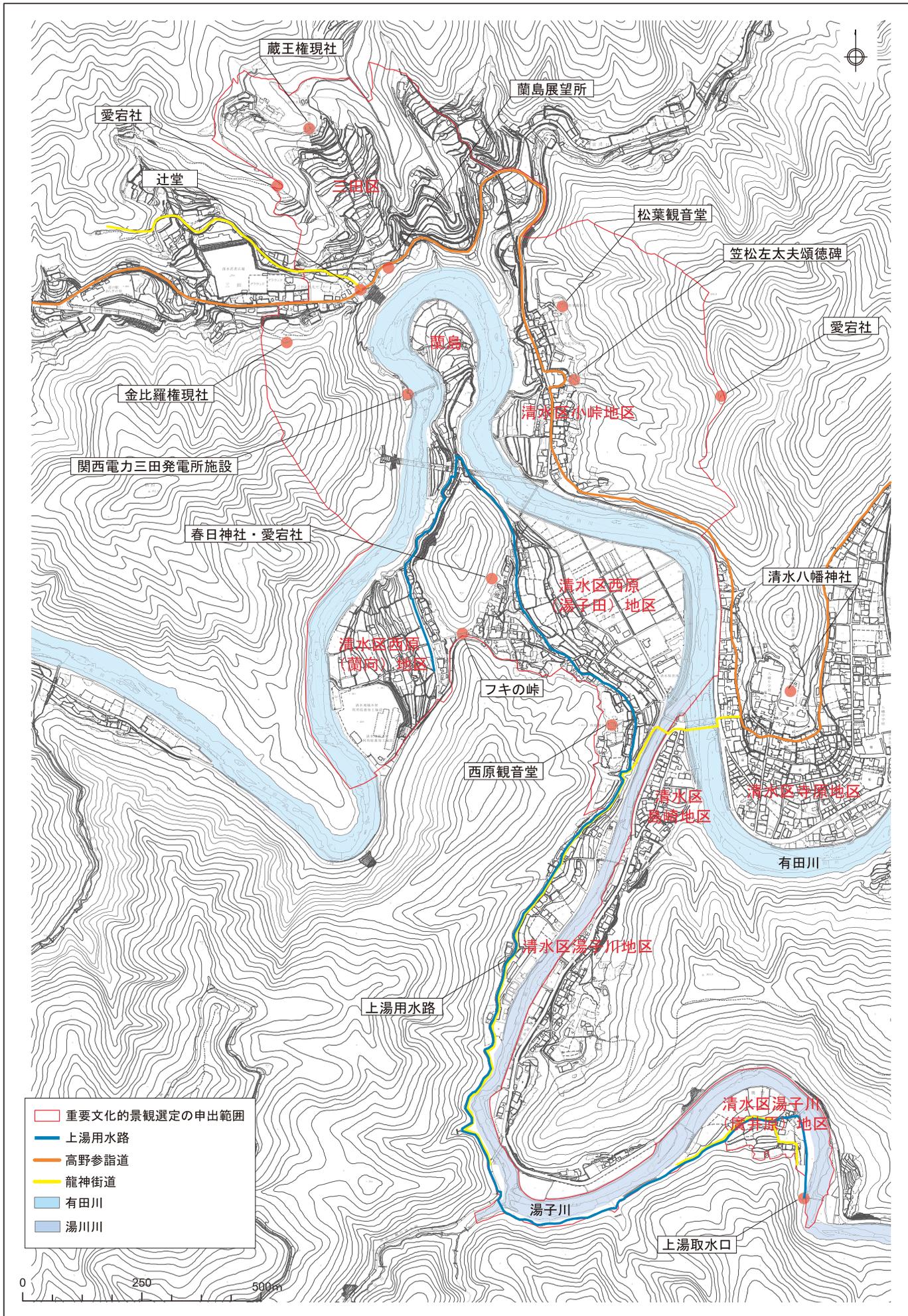
目 次

I 部 保存調査

第1章 保存調査の目的と沿革	1
第1節 保存調査にいたる経過	1
第2節 事業の経過と保存調査の検討体制	4
第3節 有田川町と清水地区の概要	6
(1) 有田川町の概況	6
(2) 清水地区の現況	11
(3) 農業を取り巻く環境	13
(4) 有田川町の文化財	17
第4節 蘭島及び周辺地域の概要	19
(1) 歴史的環境	19
(2) 蘭島の概要	30
第2章 蘭島と周辺地域の自然環境	33
第1節 有地形・地質学的調査	33
(1) 地形について	33
(2) 地質について	36
(3) 蘭島周辺の地形の形成と重要性について	46
第2節 植物相	48
第3節 動物相	70
(1) 哺乳類	70
(2) 鳥類	72
(3) 両生爬虫類	77
(4) 昆虫類その他	80
(5) 住民の方々からの聞き取り調査から考察する動物相の変遷	85
第3章 蘭島の棚田と周辺の歴史的変遷	95
第1節 古代・中世	95
(1) 中世荘園阿豆河荘のシンボル蘭島	95
(2) 異界としての蘭島－荘園のなかの位置	96
(3) 中世阿豆河荘の災害と蘭島	96
(4) 蘭島の周辺の中世開発－湯河原・シタユの復元	99
(5) 明治期地籍図に描かれた蘭島・湯子田	101
(6) 中世石造物による中世湯河原・蘭島の復元	103
(7) 西原地区石造物調査 人界と異界の二つの石造物群	106
第2節 近世	109
(1) 山保田組	109
(2) 清水村（寺原・西原・湯子川）の開発と用水	114
(3) 笠松左太夫と小峠の紙漉集落	122
第3節 災害と文化的景観	131
(1) 明治22年大水害	133
(2) 昭和28年7.18水害	134
(3) 蘭島の文化的景観と7.18水害	135
(4) 平成23年台風12号紀伊半島大水害	138
(5) 災害と文化的景観の保全	141
第4章 生業と民俗	142
第1節 概説	142
第2節 有田川町清水地区の生業空間の変遷	142
(1) 農地空間の利用法	142

(2)	農業	144
(3)	清水地区の稲作の変遷	146
(4)	山仕事	151
(5)	有田川の河原の利用法	153
第3節	近代の生業複合と保田紙	154
(1)	大正期の多様な複合生業	154
(2)	昭和戦前期の紙漉きとくらし	156
(3)	昭和28年の有田川大洪水と生業の変化	156
(4)	紙漉きに恵まれた清水の土地条件	157
(5)	保田紙の生産構造と加工技術	158
第4節	清水地区の年中行事	163
(1)	正月行事	163
(2)	節分の火焚き行事	163
(3)	春の行事	164
(4)	夏の行事	166
(5)	秋の行事	168
(6)	冬の行事	169
第5章	景観の構造とその特性	170
第1節	土地利用と景観の変遷	170
(1)	本節の目的	170
(2)	収集した地理情報	170
(3)	収集地図資料より新規に生成した地理情報	174
(4)	土地利用と景観の変遷	176
第2節	景観の特性	184
(1)	視覚的な特性	184
(2)	水系からみた蘭島の景観	187
(3)	棚田景観の季節周期変動と営農サイクル	188
(4)	社会と景観	195
第3節	景観認知の特性	197
(1)	調査の方法	197
(2)	景観のまとまりと視点場	197
(3)	認知されている要素	198
(4)	景観の調和と違和	199
第4節	集落空間の構成	201
(1)	三田集落	201
(2)	西原集落	205
(3)	小峠集落	209
(4)	蘭島周辺における集落空間の構成	213
第5節	蘭島を中心とする有田川中流域に残存する民家の特性	214
(1)	茅葺民家の地理的分布	214
(2)	その他の伝統的屋根素材	217
(3)	屋敷構え	218
(4)	茅葺き屋根の構造	232
第6章	景観保全とまちづくりの方向性	234
第1節	景観保全とその意義	234
(1)	蘭島の棚田景観を保全する意義	234
(2)	水によって秩序づけられた土地利用とその保全	234
(3)	今後の景観保全の方向性	234
第2節	地域農業の実態と景観保全のための組織、手段	236

(1)	地域農業の概況と地域農業の特徴	236
(2)	蘭島・棚田の耕作実態と保全諸活動	241
(3)	景観保全のための組織・手段	247
第7章	文化的景観の価値と特性	249
第1節	文化的景観の特性	249
第2節	文化的景観の本質的価値	255
II部 保存計画		
第1章	文化的景観の位置及び範囲	256
(1)	計画の目的	256
(2)	検討体制と計画策定の経過	257
(3)	有田川町景観計画	258
(4)	重要文化的景観の区域	260
第2章	文化的景観の保存に関する方針	263
(1)	基本方針	263
(2)	地区単位ごとの保存方針	264
第3章	土地利用に関する事項	265
(1)	既存の法令と行為規制	265
(2)	景観計画による行為の規制	268
(3)	現状変更等の取り扱い基準	275
第4章	文化的景観の整備活用	277
(1)	基本方針	277
(2)	既存の活用の取り組み	279
(3)	今後の具体施策	280
第5章	保存管理運営体制	281
(1)	基本方針	281
(2)	住民の体制	282
(3)	行政の体制	282
(4)	支援体制	282
第6章	文化的景観における重要な構成要素	284
近世史料		



インデックスマップ (本書で使用する主な地名等)